

J R 東海労働関西地「申」第15号
2017年10月16日

東海旅客鉄道株式会社
新幹線鉄道事業本部関西支社
支社長 大山 隆幸殿

J R 東海労働組合新幹線関西地方本部
執行委員長 小林 國博

「神戸製鋼所データ改ざん製品使用における安全問題」に関する申し入れ

マスコミ報道等によると、神戸製鋼所のアルミニウム・銅製品にデータの改ざんがあり、さらに鉄鋼製品にもデータの改ざんがあったと報道されている。そして、その製品の出荷は、J R 東海・J R 西日本を含め約500社にのぼると報道されている。

この事態に対し、J R 東海の柘植社長は、『東海道新幹線「N700A」の台車部品の一部強度が日本工業規格（J I S）に届いていなかったが「走行の安全性には影響がない」とし、また、神戸製鋼所の残した過去5年分のデータを確認し、台車の部品2種類、310個がJ I S基準を満たしていないことが分かった。今後年一回ほどのペースで実施している定期検査などに合わせて、出来るだけ早く適正な部品に交換していく方針だ。』などと発表している。

新幹線の台車は、新幹線車両の中でも安全上一番重要な箇所であり、仮に1重系で事故が起これば大惨事にもなりかねない。この間もWN継ぎ手の破損やギヤケースの破損等も発生しており、今回の事態も決して看過できない重大な問題である。

よって、下記の通り申し入れるので早急に労使協議の場を設定すること。

記

1. 現在実施している台車周期延伸に向けた走行試験（テストカー）は、現行周期を超えて運行しないこと。
2. 台車周期延伸に向けた走行試験（テストカー）で使用しているN700A車両（G1・7・19・20・21・22・42の7編成）に神戸製鋼所部品が使用されているのか明らかにすること。使用されている場合は、直ちに走行試験を中止すること。
3. 日本工業規格（J I S）に届いていないにも関わらず、走行の安全性に影響がないとの判断であるが、その根拠を明らかにすること。また、誰が判断したのか明らかにすること。

4. 310個の台車部品の詳細を全て明らかにすること。
5. 不良部品交換までの安全をどのように担保するのか明らかにすること。また、全ての不良部品交換が終わるまでの計画及び期日を明らかにすること。
6. 台車及び台車以外の神戸製鋼所製部品の使用箇所を明らかにすること。
7. 神戸製鋼所部品は軸箱等にも使用されているが、安全上問題ないのか明らかにすること。
8. 過去の事故に関し、台車及び台車以外における神戸製鋼所製部品使用に起因するものがなかったのか明らかにすること。
9. 過去の台車関係の事故に関し、それぞれの具体的部品名を全て明らかにすること。

以 上